

ティーチング・ポートフォリオ

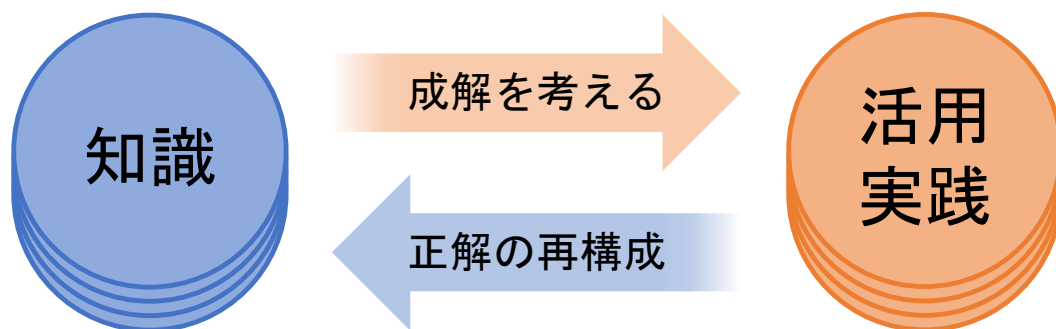
【活水女子大学における教育の責任】

- ・運動指導ができる管理栄養士を育成
- ・スポーツを通じた学生の健康づくり
- ・充実した学生生活を送るための支援
- ・部活動の環境整備とマネジメント

私の教育理念「考えて動く、動いて考える」

サブ理念①「知識を活用・実践できるようになる」

サブ理念②「活用・実践に基づいて知識を更新できるようになる」



【教育の戦略・方針・方法】

学生自身から
引き出す

「わからない」
を大切に

試行錯誤
を大切に

他者との関わり
を大切に

【活水女子大学における教育の成果】

- ・健康運動実践指導者認定試験の結果
- ・特別研究要旨集
- ・授業評価アンケートの結果
- ・学生生活実態満足度調査の結果

【長期的目標】 書も捨てず、町に出よう

2025 年 1 月 6 日

活水女子大学 健康生活学部 食生活健康学科

阿南 祐也

目次

1. はじめに	1
2. 活水女子大学における教育の責任	1
1) 専門教育	1
2) 教養教育	1
3) 学生生活支援	2
4) 部活動	2
3. 私の教育理念	2
1) 教育理念「考えて動く、動いて考える」	2
2) サブ理念①「知識を活用・実践できるようになる」	3
3) サブ理念②「活用・実践に基づいて知識を更新できるようになる」 ...	3
4. 教育の戦略・方針・方法	4
1) 私の教育理念を実現させるための戦略・方針	4
2) 活水女子大学での教育の方法	4
5. 活水女子大学における教育の成果	6
1) 健康運動実践指導者認定試験の結果	6
2) 特別研究要旨集	6
3) 授業評価アンケートの結果	6
4) 学生生活実態満足度調査の結果	6
6. 今後、「大学教員」であるために	7
7. 根拠資料	8

1. はじめに

ティーチング・ポートフォリオとは「自らの教育活動について振り返り、その自らの記述をエビデンスによって裏付けた記録」である。私は2015年4月に活水女子大学に採用され、今年度で大学教員10年目となった。今回、活水女子大学でのこれまでの教育活動を振り返り、改善へとつなげることを目的にティーチング・ポートフォリオを作成する。なお、ティーチング・ポートフォリオを活水女子大学ホームページの教員紹介ページに掲載して情報発信することで、学内外の方々と協働しながら教育活動の改善に取り組んでいきたい。

2. 活水女子大学における教育の責任

1) 専門教育

私が所属する食生活健康学科は管理栄養士養成課程であり、管理栄養士国家試験受験資格に加え、健康運動実践指導者という運動指導の資格を取得できる。私は食生活健康学科の専門教育において「運動指導ができる管理栄養士を育成」する責任を持ち、主に以下の科目を担当している（根拠資料①）。健康づくりには、栄養、運動、休養の三要素が重要であり、栄養と運動を通して健康で豊かな生活を創ることができる人材を育成する。

表1 専門教育での主な担当科目

科目名	対象学科	対象学年	開講期	種別
健康運動指導実習Ⅰ (水泳・水中運動)	食生活健康学科	2年	集中	選択
運動処方	食生活健康学科	3年	前期	選択
健康運動指導演習Ⅰ	食生活健康学科	3年	後期	選択
セミナーⅠ	食生活健康学科	3年	後期	選択
セミナーⅡ	食生活健康学科	4年	前期	選択
セミナーⅢ	食生活健康学科	4年	後期	選択

また、管理栄養士国家試験対策において、出題範囲に関する担当科目はないが、学生が自身の国家試験対策の取り組みを振り返り、改善につなげることができるように模擬試験結果や取り組みなどのフィードバックを行っている。

2) 教養教育

「活水は九州で体育（Physical Training）を導入した最初の女学校」という記録があり、活水学院百年史には「ヤング宣教師は学校生活に新しい要素を加えた。それは体育文化の要素である。生徒たちの健康のよくなったことはこの体育のおかげであ

る」と記されている。現在も活水女子大学では「健康・スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ」が必修科目となっている。私は教養教育において「スポーツを通した学生の健康づくり」について責任を持ち、主に以下の科目を担当している（根拠資料②）。

表 2 教養教育での主な担当科目

科目名	対象学科	対象学年	開講期	種別
健康・スポーツ論	食生活健康学科 生活デザイン学科 子ども学科 看護学科	1 年	前期	選択
健康・スポーツ実技Ⅰ	国際文化学科 生活デザイン学科	1 年	後期	必修
健康・スポーツ実技Ⅱ	食生活健康学科 子ども学科 看護学科	2 年	前期	必修

3) 学生生活支援

私が所属する食生活健康学科は教員 2 名で 1 つの学年を担当しており、1 年次から 4 年次までを持ちあがる。また、私は 2022 年 4 月から現在まで学科主任を務めている。担任する学年をはじめ、食生活健康学科のすべての学生が安心して充実した生活を送れるよう支援する責任を持ち、個人面談やキャリア支援などを行っている。

4) 部活動

私は活水女子大学でこれまでバスケットボール部、陸上競技部、バドミントン部、剣道部、新体操部の顧問を務めてきた。私は部活動において学生が活動するための環境整備やマネジメントについて責任を持ち、練習場所の調整や試合への帯同、部活動を活性化するための取り組みを行っている。

3. 私の教育理念

1) 教育理念「考えて動く、動いて考える」

私の教育理念である「考えて動く、動いて考える」は、サブ理念①「知識を活用・実践できるようになる」と、サブ理念②「活用・実践に基づいて知識を更新できるようになる」から構成される。知識を獲得するだけでなく、獲得した知識について活用を考えたり実践したりする活動と、活用・実践の体験や経験に基づいて獲得している知識に新たな知見を加えて更新する活動を双方向に繰り返し、積み重ねていくことを教育理念とする。なお、この「考えて動く、動いて考える」という教育理念には「学

生が自ら」という要素が含まれる。学生が自ら「考えて動く、動いて考える」ことで望ましい副産物として「学ぶ楽しさ」につながることを期待される。このことは、パズルを例に説明ができる。多くの人がパズルを楽しんだ経験があるだろうが、もし他者から「そうではない」「こっちだ」と指示されながらパズルをしても楽しくないはずである。「自ら」試行錯誤をするからこそ、パズルは楽しいものである。教育活動においても必要な知識の提供や学修を進める支援はしながらも、学修者本位であることを大事にしたい。

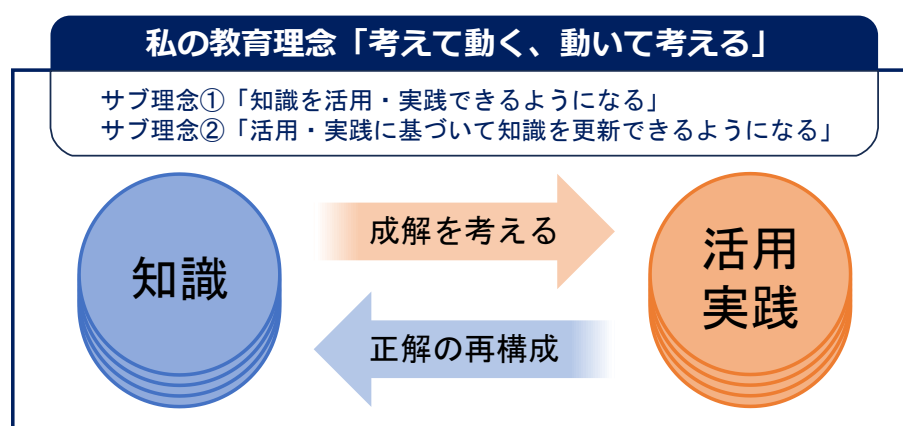


図1 私の教育理念

2) サブ理念①「知識を活用・実践できるようになる」

私が所属する食生活健康学科は「人々の健康的な生活を支援するため、実践的能力を備えた管理栄養士の育成」を教育目標としている。ここに挙げられている「実践的能力」には様々な捉え方があるが、その一つに「知識」を「活用・実践」できるようになることが挙げられる。例えば、食事は栄養素をバランスよくとる方がよいことは多くの人が知っている知識であるが、実際にバランスのよい食事をとっている人は多くない。では、どのようにしたらバランスのよい食事をとることができるか、その方法に「正解：正しい解」はなく、対象者一人一人の状況に応じた「成解：解と成るもの」を求めていくことが必要である。「成解」とはアクションリサーチという研究分野において使われる言葉で、正解とは異なり、普遍的ではなく、空間限定的、時間限定的な性質を持つものである。私の教育理念のサブ理念①「知識を活用・実践できるようになる」は、成解を考える活動と言い換えることができる。知識を獲得するだけでなく、獲得した知識をどのようにしたらうまく活用・実践できるか、その成解を考えることは学科の教育目標とも合致している。

3) サブ理念②「活用・実践に基づいて知識を更新できるようになる」

獲得した知識の活用を考えたり実践したりした場合、その体験・経験に基づき、獲

得していた知識に新たな知見が加わり更新することができる。例えば、ウォーキングを指導する際、テキストに記載されている正しい歩き方（知識）をただ説明するだけでは、対象者へ正しい歩き方を指導・習得させることは難しい。実際に対象者に正しい歩き方を指導する体験・経験を通して、正しい歩き方（知識）で意識する部分の優先順位が整理され、理解が深まり、知識が更新されていく。私の教育理念のサブ理念②「活用・実践に基づいて知識を更新できるようになる」は、正解の再構成と言い換えることができる。

4. 教育の戦略・方針・方法

1) 私の教育理念を実現させるための戦略・方針

① 学生自身から引き出す

教育理念を実現させるための戦略・方針として「学生自身から引き出す」ことを基盤とする。学生はこれまでに学びを積み重ねてきており、日常生活でも様々な体験・経験をしている。必要な知識の提供や学修を進める支援も大事にしながら、学生自身の体験・経験をもとに成解を考えることや、活用・実践により得られた学生自身の感覚から正解を再構成することを重視する。教員が教える側、学生が教えられる側という関係に固定されることなく、教員と学生が一緒に考える「協働」の関係を大切にする。

② 「わからない」を大切に

学生の考えを引き出すために「わからない」を大切にする。「わからない」から学んでおり「わからない」から研究をするのである。わからないことは恥ずかしいことではなく、学問（問うて学ぶ）の出発点であるという認識のもと、わかっていることとわかっていないことを整理しながら学生自身から引き出すことにつなげる。

③ 試行錯誤を大切に

学生自身から「解」を引き出すために試行錯誤を大切にする。学生の考えを否定したり挿げ替えたりすることはせず、別の新たな選択肢を提案・提供することで、どれが妥当であるか学生自身で試行錯誤しながら「解」を引き出すことにつなげる。

④ 他者との関わりを大切に

学生自身から引き出す「解」を深めるために他者との関わりを大切にする。他者と関わり一緒に考えることを通して、自身だけでは思いつかない考え方に気付いたり、一人ではたどり着かなかった「解」にたどり着いたりすることにつなげる。

2) 活水女子大学での教育の方法

私の教育理念を活水女子大学での教育で実現するために以下の方法を実践している。

① 専門教育

「運動指導ができる管理栄養士を育成」するため、授業で取り組む健康運動実践指導者実技試験の課題運動は手段であり、運動指導技術を身につけることが目的であると学

生に説明している（根拠資料③）。2年次の「健康運動指導実習Ⅰ（水泳・水中運動）」の授業では、課題運動の動きをどのように伝えたら対象者にとってわかりやすい指導になるかについて学生それぞれが考え、指導者役と対象者役に分かれてロールプレーを行い、その動画をYouTubeに限定公開してフィードバックしている（根拠資料④）。さらに、ロールプレーでの対象者役は評価者役も兼ね、指導者役の学生へ感想やアドバイスを伝えることでお互いに運動指導技術を高め合うようにしている。また、3年次の「運動処方」の授業では、地域で運動指導をしている方をゲストスピーカーとして招き、地域での実状を講話後、その方が関わっている運動教室に学生を帯同し、学生が実際に地域住民の方に運動指導する機会を設定している（根拠資料⑤）。

管理栄養士国家試験対策においては、4年生が自身の取り組みを振り返ることができるように模試得点と取組状況の推移を個別にフィードバックするとともに（根拠資料⑥）、学年全体の状況がわかるフィードバックも行っている（根拠資料⑦）。また、低学年での実力試験ややり直しの取り組みについてもフィードバックを行っており（根拠資料⑧）、模擬試験や取り組みを実施して終わりではなく、振り返りを大事にしている。

セミナーでは、履修学生それぞれが自身の興味・関心や疑問から独自のテーマを設定し、卒業研究に取り組んでいる。

② 教養教育

「スポーツを通した学生の健康づくり」を実現するため、「健康・スポーツ論」では健康・運動・スポーツに関する基礎知識や日常生活で実践するための工夫について講義をしている。毎回の授業で課題や感想・疑問などを記入する授業記録用紙（根拠資料⑨）を配布し、次の授業冒頭で感想や疑問に対して解説したり学生に意見を求めたりするなど、日常生活や学生自身の体験・経験と授業内容を結びつけながら進めている。また、「身体活動や運動がもたらす心理的効果」の授業回では、講義中の散歩（短時間・低強度の身体活動）により感情が変化するかという実験を実施し、自身の感情変化の理由について考察する課題を課している（根拠資料⑩）。

「健康・スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ」では、試合を中心に授業を進めているが、各種目を楽しむ上で必要となる基礎的な技能をスキルテストとして設定し、授業中に学生が自主的に練習したり教え合ったりできる空間を設定している。また、アルティメットやフットサルなどのチームスポーツでは、戦術シート（根拠資料⑪）を用いてチームごとに戦術を話し合っ決めて時間を設けたり、チーム分けの方法や1チームの人数を工夫したりして学生同士が関わり合う場面を作り出している。

③ 学生生活支援

学生生活で困ったことがあったときに学生から相談・発信できるように、新入生に対する個人面談では学生からアポイントメントをとる形式にしている（根拠資料⑫）。また、キャリア支援として将来の選択肢を増やすことを目的に「卒業生による企業説明&近況報告会」（根拠資料⑬）や「学科特別講演会」（根拠資料⑭）を実施している。

④ 部活動

学生の部活動に興味を持ってもらい応援してもらうために「誰でも参加できるバスケット大会」（根拠資料⑮）の開催や大会出場・大会結果を大学ホームページへ掲載（根拠資料⑯）したり、教職員・学生へ一斉メールで連絡したりしている（根拠資料⑰）。

5. 活水女子大学における教育の成果

1) 健康運動実践指導者認定試験の結果

健康運動実践指導者の認定試験は実技試験（水中運動または陸上運動）と筆記試験があり、いずれも3年次に受験をする。私は実技試験のうち水中運動の授業を担当しており、水中運動の実技試験直前対策も行っている。着任した2015年度以降、水中運動の実技試験では3年次に不合格となった学生も1名いたが、4年次に再受験して卒業までには全員が水中運動の実技試験に合格している。また、管理栄養士と健康運動実践指導者の資格を活かした就職実績もある。

2) 特別研究要旨集

食生活健康学科では卒業研究の要旨を特別研究要旨集として発行している。私のセミナーを履修した学生による特別研究要旨を根拠資料⑱とする。学生自身で問いを立て、調査研究を進め、自身の主張を結語として記述した卒業研究は、私の教育理念である「考えて動く、動いて考える」を体現した成果といえる。

3) 授業評価アンケートの結果

活水女子大学では、前期末と後期末の年2回、学生による授業評価アンケートを実施している。それぞれの質問項目に対して「そう思う：5点」「どちらかといえばそう思う：4点」「どちらともいえない：3点」「どちらかといえばそう思わない：2点」「そう思わない：1点」の5段階で回答を求めている。表3は、教養教育で担当する「健康・スポーツ論」「健康・スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ」の授業評価アンケートの結果である。全体平均との比較が記載された年度・科目別の集計結果を根拠資料⑲に、自由記述で得られた感想の抜粋を根拠資料⑳に示す。

また、活水女子大学では授業評価アンケートを基に学生からの評価が高い教員を表彰するグッドレクチャー賞があり、私は2020年度前期に受賞した（根拠資料㉑）。

4) 学生生活実態満足度調査の結果

活水女子大学では、年1回、学生生活実態満足度調査が行われており、2021年度調査から「学生生活の充実度」と「成長実感」に関する質問項目が追加された。2021年度～2023年度の調査において、食生活健康学科の81.7～83.7%の学生が「学生生活が充実している」と回答しており、成長実感については食生活健康学科の70.8～81.8%

表 3 授業評価アンケート結果の集計

科目	質問項目		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
健康 スポーツ論	A	教員は、シラバスを適切に説明し、その内容に沿って進めていた。	4.81	4.86	4.89	5.00
	B	教員は、学生に対し必要に応じて授業への主体的な参加、発言、学習等を促す工夫をしていた。	4.72	4.69	4.79	4.81
	C	教員は、この授業科目において、教材（テキスト、配布資料等）・PCや板書などを効果的に使用していた。	4.89	4.90	4.89	4.88
	D	教員は、わかりやすく説明するように努めていた。	4.75	4.84	4.93	4.94
	E	教員は、私語への注意など、学習に適した環境を保つよう配慮していた。	4.67	4.52	4.71	4.81
	F	教員は、学生の質問や相談を受ける機会を作り、それに対して適切に対応していた。	4.78	4.91	4.75	4.81
	G	教員は、課題（レポート、小テスト等）に対する学生へのフィードバック（評価や講評等）を適切に行っていた。	4.53	4.66	4.61	4.69
	H	私は、シラバスに記載されている学習到達目標を達成できた。	4.69	4.41	4.64	4.50
	I	私は、この授業科目の全体を振り返って、興味や関心が高まるなど、受講したことに満足している。	4.75	4.79	4.68	4.63
		平均	4.73	4.73	4.77	4.78
健康 スポーツ実技 Ⅰ・Ⅱ	A	教員は、シラバスを適切に説明し、その内容に沿って進めていた。	4.87	4.91	4.91	4.88
	B	教員は、学生に対し必要に応じて授業への主体的な参加、発言、学習等を促す工夫をしていた。	4.85	4.84	4.87	4.81
	C	教員は、この授業科目において、教材（テキスト、配布資料等）・PCや板書などを効果的に使用していた。	4.68	4.72	4.45	4.58
	D	教員は、わかりやすく説明するように努めていた。	4.88	4.85	4.85	4.92
	E	教員は、私語への注意など、学習に適した環境を保つよう配慮していた。	4.60	4.69	4.58	4.52
	F	教員は、学生の質問や相談を受ける機会を作り、それに対して適切に対応していた。	4.80	4.83	4.76	4.77
	G	教員は、課題（レポート、小テスト等）に対する学生へのフィードバック（評価や講評等）を適切に行っていた。	4.70	4.70	4.58	4.58
	H	私は、シラバスに記載されている学習到達目標を達成できた。	4.70	4.74	4.70	4.67
	I	私は、この授業科目の全体を振り返って、興味や関心が高まるなど、受講したことに満足している。	4.80	4.83	4.84	4.81
		平均	4.76	4.79	4.73	4.73

の学生が「成長をしている実感がある」と回答している（根拠資料②）。

6. 今後、「大学教員」であるために

今回、ティーチング・ポートフォリオを作成する中で様々な振り返りをおこなった結果、「大学教員」になりたいと強く志望していたことを思い出した（外的キャリアではなく内的キャリアとして）。私の教育理念である「考えて動く、動いて考える」は、私

がなりたかった大学教員像をよく表しており腑に落ちるものとなったが、同時に教育理念が実現できていない教育活動を自覚することとなった。今後は教育理念をもとに教育活動の振り返りと改善を進めていき、特に、今回記述できていない分担科目などの教育活動においても教育理念に基づいた改善を行い、ティーチング・ポートフォリオを更新していく。

さらに、私がなりたかった大学教員像には、教育活動、研究活動、地域貢献活動を関連づけて取り組むことが含まれる。私の学部生時代の恩師は「書も捨てず、町に出よう」という言葉を研究室に掲げていた。学部生の頃は、この言葉の意味について深く考えたことはなかったが、この言葉は私の教育理念にもつながっており、私がなりたかった大学教員像を包括的に表現している。今後、教育活動、研究活動、地域貢献活動を統合するためにアカデミック・ポートフォリオを作成し、「書も捨てず、町に出よう」を体現していきたい。

7. 根拠資料

資料①：専門教育での主な担当科目シラバス

資料②：教養教育での主な担当科目シラバス

資料③：「健康運動指導実習Ⅰ（水泳・水中運動）」のガイダンス資料

資料④：「健康運動指導実習Ⅰ（水泳・水中運動）」のロールプレー動画

資料⑤：「運動処方」でのゲストスピーカー招聘・学外実習の伺い文書

資料⑥：国家試験対策（4年生）での個別フィードバック

資料⑦：国家試験対策（4年生）での全体フィードバック

資料⑧：国家試験対策（2年生）での全体フィードバック

資料⑨：「健康・スポーツ論」の授業記録用紙

資料⑩：「健康・スポーツ論」の「身体活動や運動がもたらす心理的効果」授業資料

資料⑪：「健康・スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ」の戦術シート

資料⑫：新入生に対する個人面談実施の連絡メール

資料⑬：「卒業生による企業説明&近況報告会」のチラシ・周知文

資料⑭：「学科特別講演会」のチラシ・周知文

資料⑮：「誰でも参加できるバスケ大会」のポスター

資料⑯：部活動に関するホームページ NEWS&TOPICS 掲載依頼文書

資料⑰：部活動の大会出場周知メール

資料⑱：セミナー履修者の特別研究要旨

資料⑲：授業評価アンケートの結果

資料⑳：授業評価アンケートの感想コメント

資料㉑：2020年度前期グッドレクチャー賞の賞状

資料㉒：学生生活実態満足度調査の結果